

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-51C	21-036	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Heavy Alcohol Use Is Associated With Gastric Cancer: Analysis of the National Health and Nutrition Examination Survey From 1999 to 2010 大量飲酒は胃癌と関連がある : 1999-2010 年の米国国民健康栄養調査より		
執筆者		
Laszkowska M, Rodriguez S, Kim J, Hur C.		
掲載誌		
Am J Gastroenterol. 2021 May 1;116(5):1083-1086. doi: 10.14309/ajg.0000000000001166.		
キーワード		PMID
大量飲酒、胃癌、米国国民健康栄養調査		33625123
要 旨		
<p>目的 : 飲酒と胃癌の関連についての報告は散見されるが、研究デザインやアルコール消費の定義の相違などにより、結果は一貫していないのが現状である。特に大量飲酒に着目した報告は少ない。そこで、米国を代表する一般集団を対象に、大量飲酒と胃癌の関連について検討した。</p> <p>方法 : 1999-2010 年の米国国民健康栄養調査に参加した成人を対象とした。飲酒と胃癌の既往に関する情報は質問票により得た。生涯の最多飲酒量の比較は、これまでに 12 杯未満あるいは 12 杯以上の飲酒をしたことがある場合で比較した。大量飲酒習慣は、これまでに毎日/ほぼ毎日 1 日 5 杯以上の飲酒をしていた期間がある場合とした。飲酒と胃癌の関連は、年齢、性別、人種、学歴、喫煙、在留資格により調整した重回帰分析を用いて検討した。</p> <p>結果 : 470,168 名の対象者のうち、342 名に胃癌の既往があった。生涯の最多飲酒量と胃癌の関連については、12 杯未満と 12 杯以上で差はなかった(オッズ比(OR), 0.76 [95%信頼区間(CI), 0.13-4.37])。大量飲酒習慣と胃癌の関連については、正の関連を認めた(OR, 3.13 [95%CI, 1.15-8.64])。</p> <p>結論 : 本研究は、大量飲酒と胃癌の関連を示した米国において最も大規模な研究である。大量飲酒歴のある者に対し、スクリーニングなどの予防的な介入が有用かどうかについて、さらなる検討が求められる。</p>		